

# 夢の本棚へ

発行所：松居直コレクション  
プロジェクト  
代 表：金戸 美紀予  
事務局：石川県小松市  
小馬出町10-3  
空とこども絵本館  
☎ 0761-23-0033  
bookrin@city.komatsu.lg.jp



【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉  
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

印刷がどんなふう印刷されているのか、虫眼鏡で見ますと網点が全くないんです◆スクリーンレスプロセス、つまりカプラーレッシュを自分でやってること。自分で絵をかく時に、黄、赤、藍、墨というのを別々の版で描いてらっしゃる。それをカメラで撮って重ねるんですね◆八島さんが「これはアートディレクターのコールマンさんに教えてもらった方法だから聞きな

◆挿絵の印刷方法を最初に見てびっくりしたのが、八島太郎さんの『あまがさ』でした。



やしまたろう作・絵  
1963年/福音館書店刊

## 新しい製版技術を取り入れる

「どきどき」で育む豊かな心と生きる力⑨  
物語絵本が翻訳絵本と並んで国内で定着

いよって言われて、アメリカに手紙を出して伺いました◆そして、カプラーレッシュという分解をして4色の絵ができるという方法を教えてください。その方法を私が、日本へ材料も全部買って持って帰りました◆そして、最初にそれをお教えたのが、瀬川康男さんだった。その方法で瀬川さんが描かれたのが『ふしぎなたけのこ』です。とって

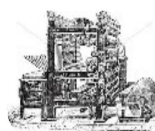


松野正子さく/瀬川康男え  
87号/1963年6月号

も迫力が出るんですね。この本を出版して4年後で、1967(昭和42)年に瀬川さんは、第1回のBIB(プラチスラヴァ世界絵本原画展)で最初のグランプリをお取りになったんです。

## ページ数を増やす

◆この時、ページ数が増えたとくさんないと本格的な物語絵本がでないってことで、この号からページ数を増やすことに致しました。版型は同じなんですけど、場面数を2場面増やすことによって、物語がとってもよく表現できるようになりました◆そのかわり、当然本が高くなりました。今まで五十円だった本が百円です。でも、社内ではもう大反対だったんです。販売の方は、そんな五十円を出した子どもの本を百円にしたら売れなくなってしまうって。読者が納得してくださるはずがないってことで大激論があったんです◆けれども私は、ずーっとそれまでの編集をしてきた



経験で、内容が良くなっ  
てほんとに物語絵本の  
面白さってものが表現  
されていけば、「こども  
ものとも」の読者は分  
かってくださるってこ  
とを最後まで強力で主  
張しました◆そして、  
ページ数を4ページ増  
やして、百円で出しま  
した。そして、部数  
が増えたんなんです。い  
っぺんに黒字になりました。  
ほんとに読者はあ  
りがたいです。

## 傑作絵本が次々と誕生

◆この頃続けて出したのが、『おおきなかぶ』(74号・1962年5月号)、『だいくとおにろく』(75号・同年6月号)、加古さんの『かわ』(76号・同年7月号)です。そして、『かばくん』(78号・同年9月号)、瀬川さんの2冊目の本『つきをいる』(79号・同年10月号)。今、傑作集の中で一番読まれている本なのが、この2年間ぐらいの間に出すこ

とができました◆それで完全に「物語絵本」は、国内で翻訳の絵本と並んで定着することになりました。

## 言葉が持つ力

◆なかでも『おおきなかぶ』は、言葉の問題が非常に重要なんです。子どもは共感しなければ喜びません。嘘がほんとうになるんですよ。どこでなるかって。絵の力以上に、これは言葉の力です。ですから、翻訳なんかするのは非常に重要なんです◆「うんとこしょ、どっこいしょ」って書いてあるんです。内田莉紗子さんは、ロシア語を訳したんじゃないかって、日本語の中で最高の力を込めて引張る時の言葉を当てはめられたんです。だから子どもたちは、その言葉でいっぺんに自分でも引張ってる気持ちになるんですよね。もう、この物語の中に入っちゃうんですから。(つづく)